

2021年度 学校説明会 「部長挨拶」

○ 教育を取り巻く状況と初等部教育の展望

3回目の緊急事態宣言が発出されました。いっこうに治まらない新型コロナウイルス感染症。東京は、日本は、そして世界は、今後どうなっていくのでしょうか。今の子ども達が大人になる頃には、「コロナウイルス？そういえば、あったね。」などと言われるのでしょうか。10年後、20年後、日本や世界はどうなっているのか、私には想像も出来ません。しかし今や、人間に代わりAIが益々社会進出をし、世の中が目まぐるしく変わってきていることは事実です。求められる社会能力も大きく変わってきています。もちろん学校も例外ではありません。

小学校の学習指導要領も新しくなりました。5・6年生に教科として「英語科」の設置、特別教科としての「道徳」の設置、そして教科横断的な「プログラミング教育」の実施が盛り込まれました。道徳については、文部科学省もこれまで通り宗教を道徳に替えることができる、としていますので、初等部のキリスト教を柱とする教育や宗教の時間に変わりはありません。英語教育については、今までも他の学校より50歩も100歩も先んじている初等部です。初等部の1年生から高等部3年生までの12年間を一貫して行う英語教育、4－4－4制を実施し、そのために青山学院独自の英語教材「SEED BOOK」を作成、使用しています。

これまでは英語に限らず、言われたことを覚え、覚えた知識の量や与えられた問題の正解に最短でたどり着く力を求められ、間違えない、ミスしないための努力をしてきました。この力にたけた人間が、いわゆる「頭が良い」とか「優秀」とされてきたわけです。しかし、これからの社会は、知識だけでは通用しません。世界中にあふれる情報の中で何が必要で大切なのかを判断し、構造化して、明快に表現できなければなりません。異なる文化の人と接する機会が増え、コミュニケーション能力、表現力も今以上に大事です。自ら課題を発見し、その解決に向

けて主体的に行動できる能力、正解のない問題にどれだけ多くの考えが提示できるか、そして生涯にわたって学び続ける学習力などが必要とされています。早い話が、今までのように言われた事を言われた通りにしかできない人間、AIと同じ能力の人間は、これからは必要とされない、ということです。文部科学省も「主体的な深い学び」と言っています。受け身ではなく、子ども達自ら考え、その考えを共有する力。学びを楽しみ深めようとする力。これら「21世紀型スキル」と呼ばれる資質、能力が必要となってきます。今の子ども達は本当に大変な時代を生きていくことになります。しかし、今までも初等部教育の考え方、方向性はまさにこの「21世紀型スキル」であり、いつでも学校生活や学習の主体、主役は、子ども達一人ひとりであることを再確認し、「感じ・考え・学習する」という学びのサイクルと基礎・基本を大切に、「一人ひとりが活かされ、一人ひとりを活かす」という初等部ならではの教育をこれからも実践して参ります。

○ 初等部のICT活用

子ども達の学習を楽しく、そしてわかりやすく「わくわく」させるツールとして電子黒板、タブレットPC、電子教科書等を導入し、授業や家庭学習など様々な場面で活用を進め、その有効性の実証実験をおこなってきました。昨年度は、緊急事態宣言での休校期間中、保護者の協力をいただき、いち早く全児童各家庭における初等部独自のインターネットを利用した「オンライン学習」を開始しました。これは「学習の保証」と、そして青山学院初等部の大切な子どもとして「つながる」ことを一番に考えた結果でもありました。

このタブレットPCを含むICT活用ですが、これからの情報化社会に対応できる子ども達を育てるため、初等部では10年前からICT活用を検証してきました。今後は「Withコロナ」から「Afterコロナ」にあわせて、タブレットPCの使い方も含めて新たな学びを構築していきます。

また、プログラミング教育については、プログラミング的思

考と言われる思考力を育てることにあります。初等部では、専門家の保護者の協力で、ドローンとロボットを使ったプログラミング学習をスタートして6年目になります。今年度からは、民間企業とタイアップしての実施も予定しています。

○ キリスト教信仰に基づく教育

青山学院は、キリスト教信仰に基づいた一貫教育を行っている学校です。幼稚園から、初等部、中等部、高等部、大学、大学院までの総合学園として今年で創立147年目を迎えました。時代の変化と共に学校組織や教育内容は変わりますが、青山学院の教育の原点は今も変わることなく、創立150年に向け「サーバント・リーダーの育成」という明確なビジョンを掲げ歩んでいます。「サーバント・リーダー」とは、縁の下での力持ちとしての役割を持ったリーダー像であり、青山学院のスクール・モットーである「地の塩・世の光」をまさに体現する人だと言えます。また、幼稚園から大学までの16年間、この渋谷の One Campus で学びが継続できることも強みの一つです。

その中で、本校で一番大切にしていることは「礼拝」です。子ども達も毎朝、礼拝から一日をスタートします。昨年度の休校期間中も毎朝「オンライン礼拝」を配信していました。1年を通して学校生活全体が、キリスト教信仰に基づいた生活が行われています。

時代によって変わる知識や技能ではなく、自然や社会に活かされているという普遍的環境において、人として、人間としての基盤や人格を確立していく事も学童期の小学生時代には絶対必要です。感受性豊かな幼少期、学童期だからこそ、自分の心の目、心の耳で、主体的に、そして能動的に「感じ・考え・学習する」教育こそが大切になってきます。従ってどんな時代、どんな社会にあっても、キリスト教信仰に基づいた、人としての人格の完成を目指す青山学院、そして初等部教育は、これからAI時代になればなるほど、今以上に重要となり必要とされる教育であると、このコロナ禍の中にあってもさらに確信を深めています。

余談ですが、世界に目を向け、グローバル社会を考えたとき、キリスト教は、主要先進国を中心に世界人口の1/3、約23億

人に信仰されている宗教です。キリスト教への理解、経験は、世界の歴史、文化、習慣を語るには語学と同じくらい重要な要素だと思っています。

○ 初等部教育の根幹

本校は、他人との比較や競争をする「能力主義」の学校でも、特別な力に特化した「英才教育」の学校でもありません。日々、子ども自身の内面に「感じ・考え・学習する」サイクルを生み出し、主体的な学校生活を送る実践をしてきました。「教える、教え込む」教育から、「自ら学び体得する」教育へ。様々な経験、体験を通して感じ、物事を深く考え、思いやりのある人間関係を築きながら成長する。そしてキリスト教学校として、神様から与えられた命を人間らしく生きる、そのような人格教育、そして人を育てることを柱としている学校です。しかもこのような人格教育は、大人になってからでは遅いのです。心が素直で柔らかな子どもの時にこそ必要であり大切なことだと考えています。皆同じの「画一的な横並び教育」や詰め込んだ知識を競い、1番になるための「Number One 教育」ではありません。本校では、一人ひとりの賜物を活かした「Only One の教育」。これが初等部です。Only One の教育には時間と根気、そして愛が重要です。もちろん Only One の中から Number One が生まれることは必然だと考えています。

具体的な事として初等部には、昔から大切にしている「5つのおやくそく」があります。

- 【 ・ 親切にします ・ 正直にします ・ 礼儀正しくします
- ・ よく考えてします ・ 自分のことは自分でします 】

この5つのお約束の重要なことは、「親切にきなさい」ではなく「親切にします」という、自らが発信している主体的な約束なのです。これは初等部教育の原点でもあり、ここに深い考えがあり、子ども達の人格形成にとっては重要であると考えています。つまり、いつも子ども達が主役なのです。

○ おわりに

人は教育によって真の人間となります。人生でたった1回きりの小学

生時代、この大切に素晴らしい時をどこで、どのような教育を受けるのか、これは親の責任でもあります。人格形成にとってきわめて大切な時期に、核となる価値観を持つ事が人生の羅針盤となり、揺るぎない人生を歩む事ができると信じています。

青山学院初等部は、キリスト教信仰に基づく建学の精神を根底において、神様からの賜物を活かし、これからのグローバル時代を生きていく子ども達を育てる教育の場です。そのために、教職員一人ひとり、愛を持って子ども達と向き合っています。

青山学院初等部の教育の趣旨をご理解をいただき、お子様の学校の選択肢の一つとして加えて頂ければ幸いです。

2021年5月

青山学院初等部 部長
中村 貞雄